

# 文学部

文学部生の

5

リアルな！  
学生生活

vol.24

文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。



## 卓球でボランティア？

私は大学生活において、卓球をきっかけに海外でボランティア活動をするという経験をしました。中学校で卓球を始め、それ以降ずっと続けており、大学でも卓球同好会に入会しました。その卓球同好会で「卓球ボランティア」に出会のですが、それまでは海外やボランティア活動には興味はあつたものの、卓球ボランティアというものはまったく知りませんでした。

卓球同好会の活動の一つに、気仙沼の中学生に卓球の指導をするボランティア活動があります。私が入学した年は活動2年目で、先輩に誘っていただいて好奇心もあり参加することにしました。そこで見たのは、東日本大震災を経験した中学生たちが、卓球をす



コスタリカで行われた中米合同合宿の様子

るときは心の底から笑顔になり、夢中になってプレーをする姿でした。以来、それまで自分が持っていたボランティアへの考えが大きく変わり、自分ができることで人の役に立ちたいと思うようになりました。

## 高まる国際協力への想い

それからは地元の中学校や高校などで子どもたちに卓球の指導をしながら、国際協力への興味を抱き続けていました。そして3年次の夏に初めて海外に行くことになりました。フィリピンで活動するNGOの仕事を学ぶとい



コスタリカのリオセレスにて

## 海外でのボランティアで自分の視野と可能性を広げる

—自分ができること“卓球”で国際協力を—

はしもと しょう  
橋本 翔

文学部人文社会学科東洋史学専攻4年  
神奈川県立多摩高校出身

卓球の指導もありました。私は「ずっと力を入れてきた卓球で国際協力に参加できるなんて！これは運命だ！」と思い、応募することになりました。そして試験を経て2017年3月にコスタリカへ派遣されることになりました。

## コスタリカで学んだこと

コスタリカではコスタリカ卓球協会に配属され、プレレレクションと呼ばれる国内で選ばれた選手への指導を主として活動を行いました。対象は小学生から大人までと幅広く、カウンターパートと呼ばれる同僚と二人で指導を行っていました。最初は言葉もわからず、習慣や文化への適応、人間関係にも苦労し、もどかしい日々を過ごしていました。

言いたいこともあまり言えず、当た

うスタディーツアーに参加し、今まで見たことのない世界を知りました。これは私にとってとても大きな経験となり、より国際協力への関心が高まるきっかけになりましたが、同時に自分の能力や経験では貢献することが難しいことも痛感しました。

その後4年生になり就職活動をしていましたが、国際協力への想いを持ち続けたままでした。そんなときに偶然見つけたのが国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊(現JICA海外協力隊)です。青年海外協力隊にはさまざまな職種があり、そのなかには



2年間ともに活動した同僚、リカルドと

り前が当たり前でない環境に苦しみながら半年ほどが過ぎたころ、転機が訪れました。同僚が長期休暇で職場を離れ、約1カ月一人で指導をすることになったのです。また、その時期に活動計画会議が開かれることになりました。それまでは自分から行動を起こすことはあまりなかったのですが、自分から行動しなければならぬこの状況を好機と考え、自ら積極的に発言し、行動するようになりました。会議でも、これまで自分が言いたかったことをJICAスタッフの方の助けを借りて伝えることができました。このときから、私とコスタリカの人たちとの相互理解が大きく進んだと思います。一人で仕事をするため仕事量は増えましたが、自分の考えを実際に実行できることはとてもやりがいがあり、苦しくも楽しい時期だったと思います。

そして、何より一番必要なのは信頼関係なのだと学びました。同僚、選

From the Faculty of Letters



文学部 だより



## 頑張っている 仲間(文学部) の紹介

文学部事務室  
きもと えい 希  
さきもと 英 希

手、選手の家族たちと積極的にコミュニケーションを取り、また彼らの話をよく聞き、理解に努めました。それまでの自分は異文化に対しての不満ばかりで、コスタリカに日本のやり方を求めていましたが、コミュニケーションをとるなかで彼らの文化や考え方を理解し、互いにより良い方法を探してコスタリカの発展に貢献しようと考えようになりました。

その後の活動期間ではコスタリカ人

とともに協力し、中米初の合同合宿、スポーツ振興プロジェクトの実施、コスタリカ史上初の世界選手権出場など、自分が考えていた以上の活動を行うことができました。今ではコスタリカを名残惜しみながら、自分を信頼し、協力してくれたコスタリカの人々に感謝しています。コスタリカでの2年間の経験を、これからの人生の大きな糧にして、また次のステップへ進んでいきたいと考えています。

長い夏休みもそろそろ終わり、後期がスタートします。今回は、文学部の学生の活躍を紹介したいと思います。

現在、文学部には約4000人の学生が在籍しており、夏休みの期間にさまざまな挑戦をした学生がいます。マレー語修得と、現地での文献調査・収集のためにマレーシアへ留学した学生、ヨーロッパへ渡り信仰についての調査を行った学生、フィリピン・アメリカ・イギリスで食品ロスの削減方法を調査した学生。そのほかにも多くの学生が夏休みの期

間を利用して学外での調査などを行いました。これらの活動は、文学部の奨学金を利用したもので、大きな成長につながったと思います。すでに春休みでの活動のために奨学金を獲得し、準備をしている学生もいます。大学の給付型奨学金を利用し、何か大きな挑戦をしてみたいかがでしょうか。

奨学金を利用する学生以外にも、東京オリンピック・パラリンピック出場をめざして部活動を頑張る学生、国内外のインターンシップに参加して社会人としての第一歩を踏み

出した学生など、日本全国だけでなく海外からも学生の活躍を聞き、教職員は大きなエネルギーや刺激ももらっています。大学生でもできると、大学生にしかできないこと、たくさんあるかと思えます。長いようで短い大学生活。我々教職員は皆さまのご子女の「挑戦」や「成長」をサポートし、活気あふれる大学をつくっていきたいと思っております。皆さまにおかれましても、ご子女の挑戦や成長を応援していただけますと幸いです。



地方の子どもたち向けのスポーツ振興イベントの様子